

2008年3月期（2007年度）中間決算 事業報告会資料

2007年11月28日

戸田工業株式会社
戸田工業グループ

2008年3月期中間決算 事業の業績(連結)

2008年3月期中間決算 連結業績	4
業績の特徴	5
セグメント別売上高	6
経常利益の分析	7
2008年3月期中間決算 貸借対照表科目	8
貸借対照表科目の特徴	9
キャッシュフローの特徴	10
主な連結子会社の状況	11
設備投資・研究開発・減価償却	12
2008年3月期中間決算のポイント	13
中期経営計画に対する達成状況	14

事業の計画

中期経営計画における重要課題	16
中期経営計画との比較(連結) 1	17
中期経営計画との比較(連結) 2	18
機能性顔料事業	19
電子素材事業	20
エンジニアリング事業	21
電池材料事業の拡大	22
TOPIX EMCデバイス	23

2008年3月期中間決算 事業の業績(連結)

2008年3月期中間決算 連結業績

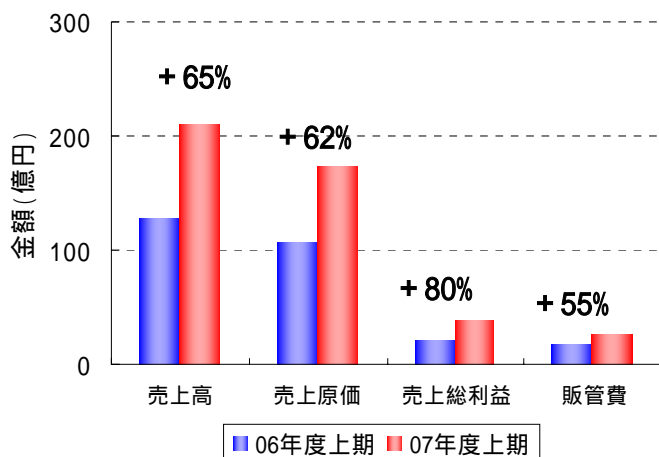
(単位:百万円)

損益	07年3月期 上期	08年3月期 上期	前年同期比
売上高	12,801	21,132	165%
売上原価	10,696	17,353	162%
売上総利益	2,104	3,779	180%
販管費	1,740	2,691	155%
営業利益	364	1,087	299%
経常利益	490	1,130	231%
純利益	276	494	179%
1株当たり 純利益(円)	5.86	10.71	183%

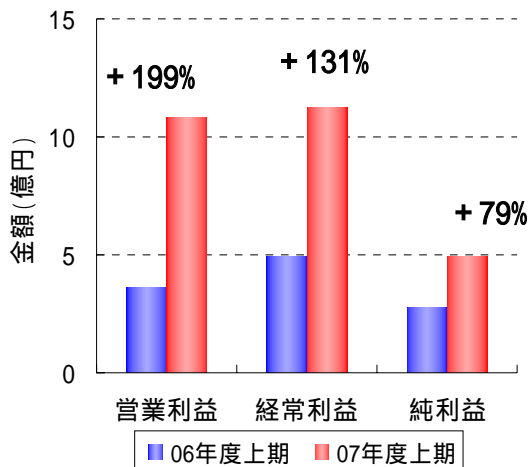
特徴

1. 売上高は、前年同期に対して65%増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化とリチウムイオン電池正極材料の伸びが大きく寄与しています。また、電子印刷用材料、フェライト材料、顔料も伸びました。一方、アナログテープ用磁気記録材料は引き続き売上を減少させています。
2. 売上原価は、前年同期に対して62%増加しました。富士化水工業(株)の連結子会社化とリチウムイオン電池正極材料の伸びが主要因です。製造コストの原価低減活動に引き続き努めていますが、硫酸コバルトの高騰の影響で相殺されています。
3. 販管費は、前年同期に対して55%の増加に留まりました。前年下期から取り組んでいる物流コストの改善活動が大きく寄与しています。
4. 以上の結果、営業利益は前年同期に対して199%増加しました。また、純利益については、H.C.スタルク社のM&A経費や退職慰労金引当金を特別損失に計上したことにより、前年同期に対しては79%の増加に留まっています。

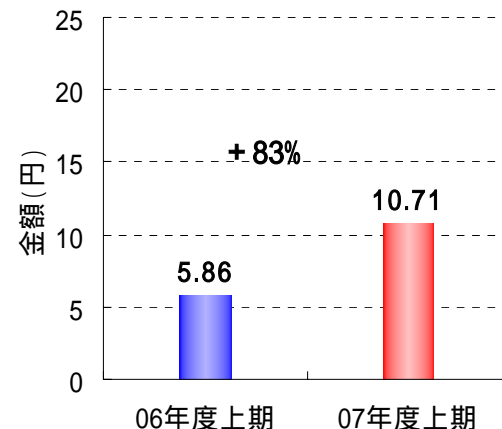
売上高、販管費等



利益



一株当たり純利益



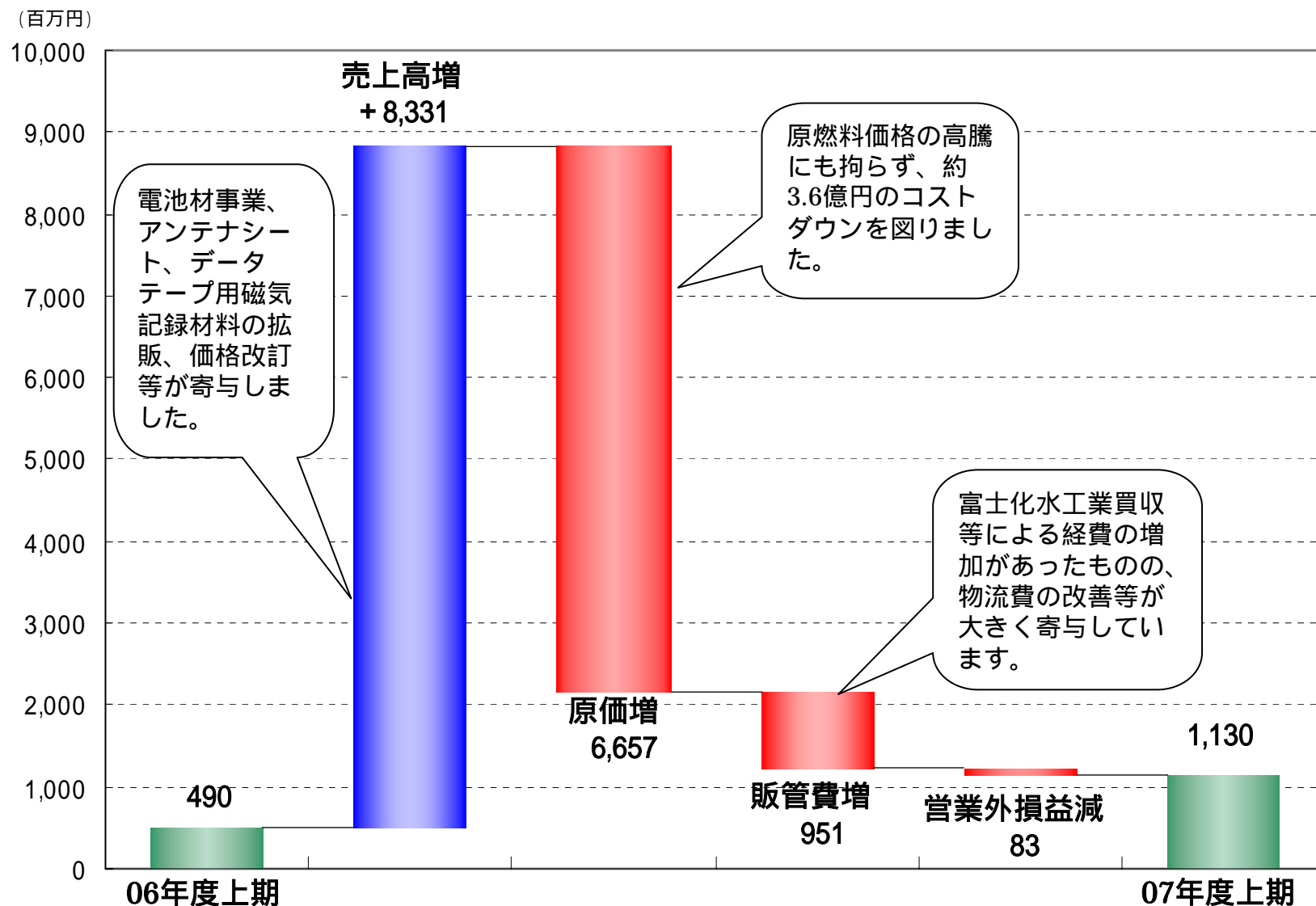
セグメント別売上高

(単位：百万円)

	07年3月期 上期	08年3月期 上期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	7,193	6,884	96%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	5,422	8,944	165%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	186	5,304	2,852%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	12,801	21,132	165%	

1. 機能性顔料事業では、電子写真用材料、顔料が伸びたものの、アナログ磁気記録材料の販売が引き続き減少しているため、前年同期比4%の減収となりました。
2. 電子素材事業では、リチウムイオン電池正極材の売上が大きく成長したこと、新規事業のアンテナシート等も伸張していることで、前年同期比65%の大幅な増収となりました。
3. エンジニアリング事業では、富士化水工業(株)の事業が大きく貢献し、前年同期比2,852%の増収となりました。

経常利益の分析



(単位：百万円)

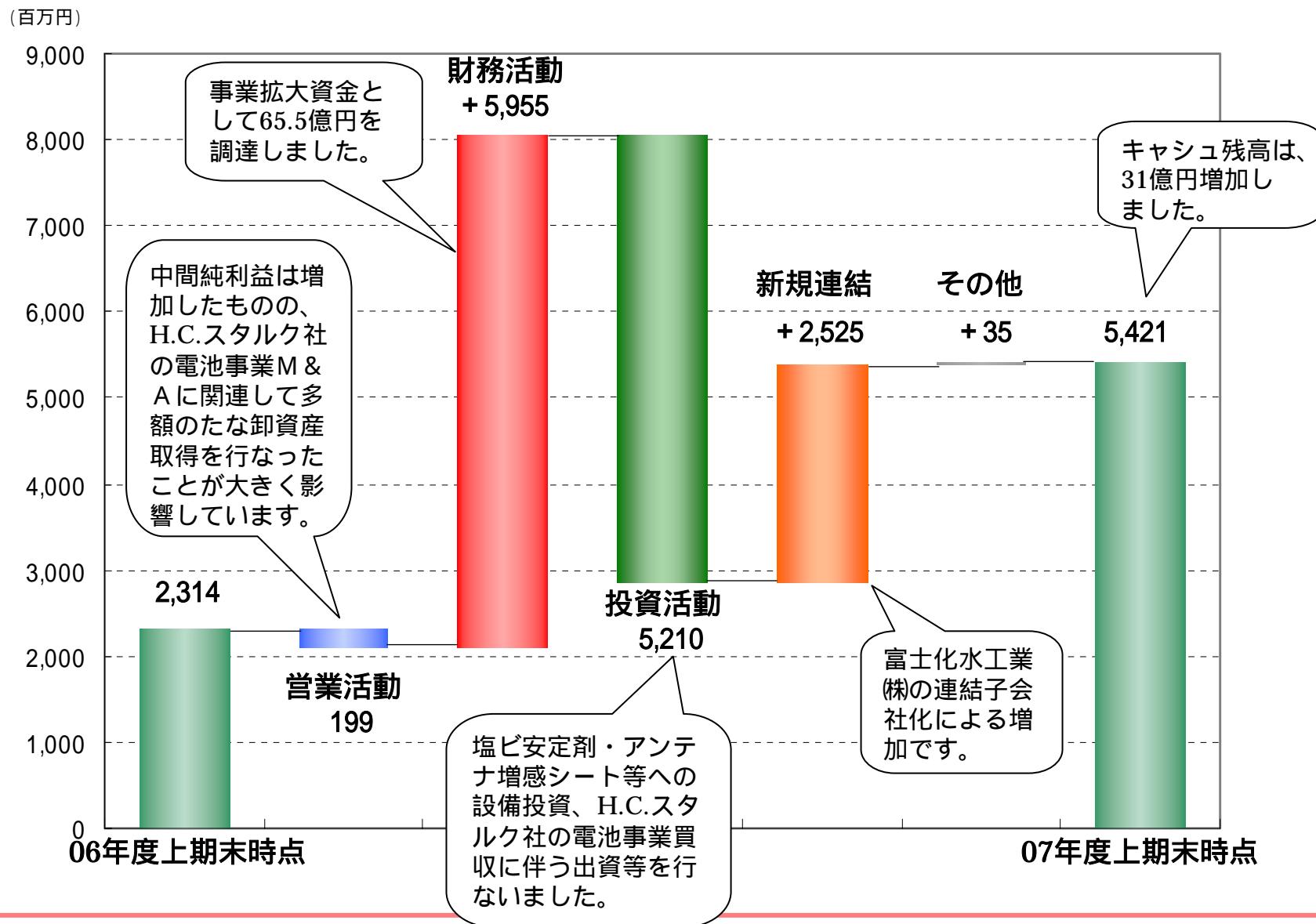
貸借対照表科目	07年3月期 上期	08年3月期 上期	増減
流動資産	14,524	28,300	13,776
固定資産	24,529	28,192	3,663
流動負債	7,587	17,773	10,186
固定負債	2,745	9,414	6,669
株主資本	27,881	28,188	307
少数株主持分	221	396	175
総資産	39,053	56,496	17,443
現金/同等物	2,314	5,421	3,107
キャッシュフロー	295	767	1,062
ROE (%)	1.9	3.4	1.5

ROEは年換算で算出。

貸借対照表科目の特徴

1. 総資産は、174億43百万円増加しました。約65%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社からの電池事業買収に伴うもので、残りはその他事業の拡大に伴うものです。
2. 流動資産は、137億76百万円増加しました。約65%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社の電池事業買収に伴うもので、その他が売上債権、たな卸資産等の増加です。
3. 固定資産は、36億63百万円増加しました。新規事業に対する設備投資に伴う建設仮勘定、H.C.スタルク社の電池事業買収、富士化水工業の連結子会社化等により増加しました。
4. 負債は、168億55百万円増加しました。約95%が富士化水工業の連結子会社化、H.C.スタルク社の電池事業買収、設備投資資金としての借入金の増加です。
5. キャッシュ残高は、前年期末比31億7百万円増加しました。
6. ROEは、M&A関連費用等を特別損失計上しましたが、1.9%から3.4%に増加となりました。

キャッシュフローの特徴



主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益	
	07年3月期 下期	08年3月期 上期	07年3月期 下期	08年3月期 上期
富士化水工業株式会社	6,642	5,694	212	95
戸田マテリアル株式会社	915	1,177	82	14
戸田ピグメント株式会社	1,057	880	5	33
戸田工業ヨーロッパGmbH	230	1,021	7	77
戸田アメリカInc.	1,058	1,087	16	28
戸田塑磁材料(浙江)有限公司	241	295	39	42

富士化水工業株式会社の決算は1月末。

1. 富士化水工業(株)が行う環境エンジニアリング事業は、建設業法改正の影響で受注が減少するとともに、調達資材の高騰で利益が悪化しています。下期は受注が回復することを期待しています。
2. 戸田マテリアル(株)のリチウムイオン電池材料は、売上が拡大しています。稼働率向上に伴い、利益面での改善も進展しています。
3. 戸田ピグメント(株)は、原燃料価格上昇の影響を原価低減活動で吸収しきれず、経常利益が一段と悪化しました。
4. 戸田工業ヨーロッパGmbHは、H.C.スタルク社の電池事業買収に伴い販売窓口となったため、売上高・経常利益とも大幅に増加しています。
5. 戸田アメリカInc.は、大きな変化はありません。
6. 戸田塑磁材料(浙江)有限公司は、中国国内での拡販により、増収増益を継続しています。

(単位：百万円)

	07年3月期 (A)	08年3月期 上期	08年3月期 計画(B)	伸長率 (B/A)
設備投資	1,709	1,060	2,400	140%
研究開発	1,513	807	1,600	106%
減価償却	1,829	1,086	2,200	120%

1. 設備投資の内訳は、アンテナ用フェライトシートの生産設備、塩ビ安定剤生産設備、フェライト生産設備の更新等です。下期には、カラートナーキャリア材生産設備、塩ビ安定剤生産設備の新設等を予定しています。
2. 研究開発費は、新規事業の開発に重点的に配分しており、引続き拡大させる計画です。
3. 減価償却費については、償却制度の変更に伴う新たな償却費負担が、半期で約1.5億円含まれています。

■ 3期連続の増収増益に向けて前進中

1. **売上高**は過去最高

211億円 (+65%)

2. **経常利益**は大幅増

11.3億円 (+131%)

3. **純利益**も大幅増

4.9億円 (+79%)

■ 事業構造の転換、経営の体質改善が進行中

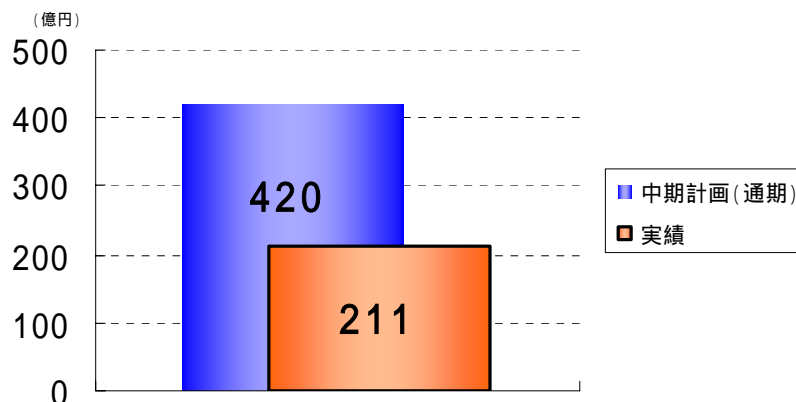
1. 富士化水工業の事業規模が貢献

2. 電池材料事業の収益が改善

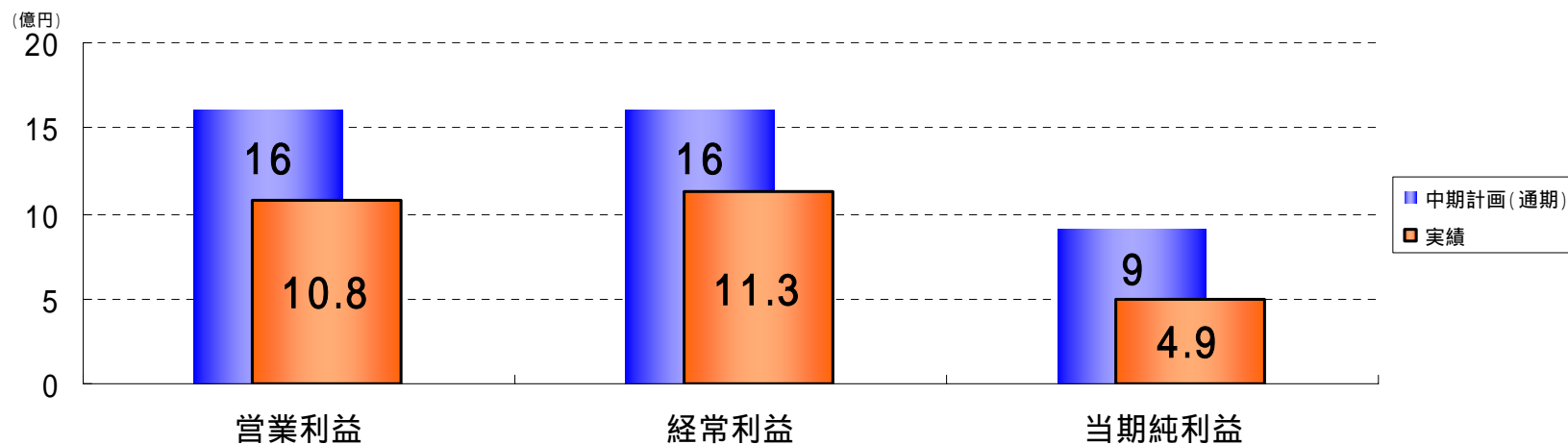
3. 物流費等、経費削減を積極的に推進

中期経営計画に対する達成状況

売上高（08年3月期上期）

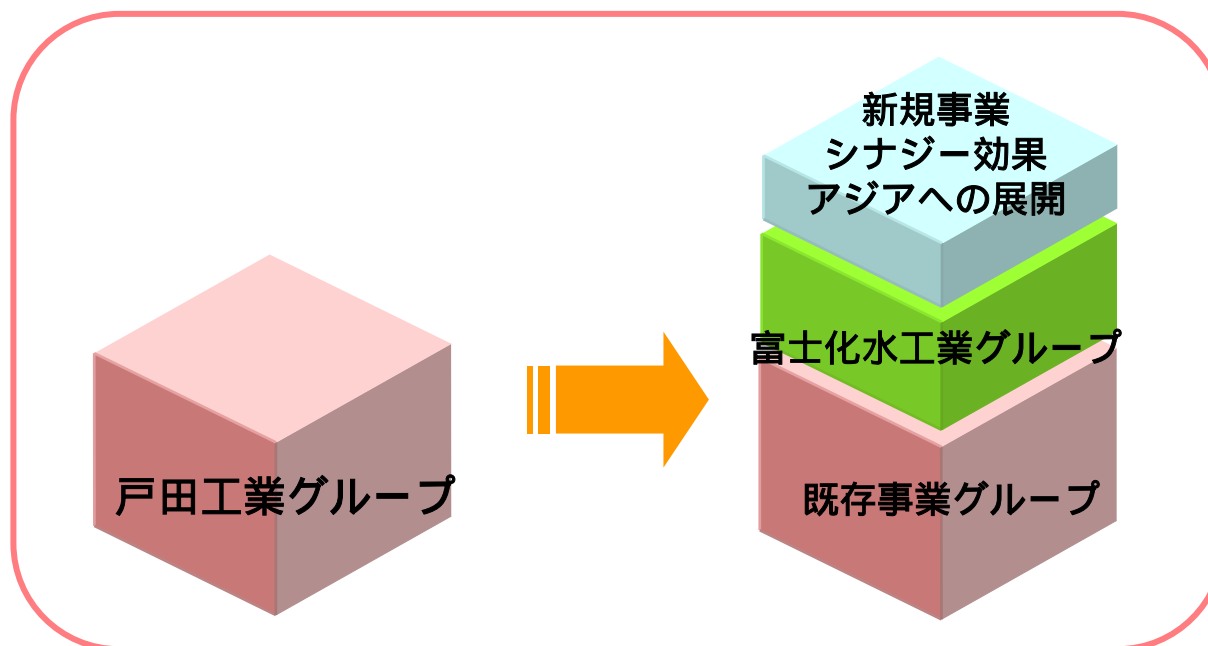


利益（08年3月期上期）



事業の計画

- 1．新規事業の確実な立上げ
- 2．富士化水工業(株)のグループ経営化による確実なシナジー効果の創出
- 3．アジアへの展開



中期経営計画（06～09年）

中期経営計画との比較（連結）1

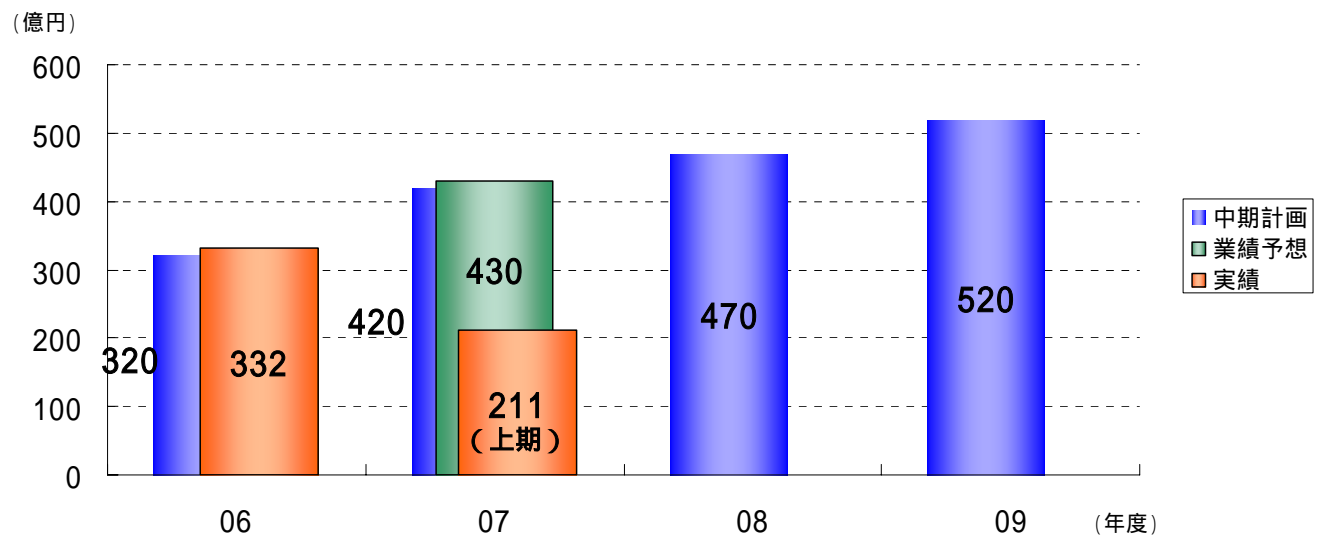
（単位：億円）

	06年度		07年度		08年度	09年度	年間成長率
	計画	実績	計画	業績予想	計画	計画	
売上高	320	332	420	430	470	520	21%
営業利益	13	11.7	16	16	24	32	66%
経常利益	13	13.3	16	16	24	32	53%
純利益	7.5	11.1	9	9	14	19	73%
営業利益率	4.1%	3.5%	3.8%	3.7%	5.1%	6.2%	
ROE	2.6%	3.9%	3.0%	3.1%	4.7%	6.0%	
一株当り純利益	16円	23.8円	19円	19円	30円	40円	73%

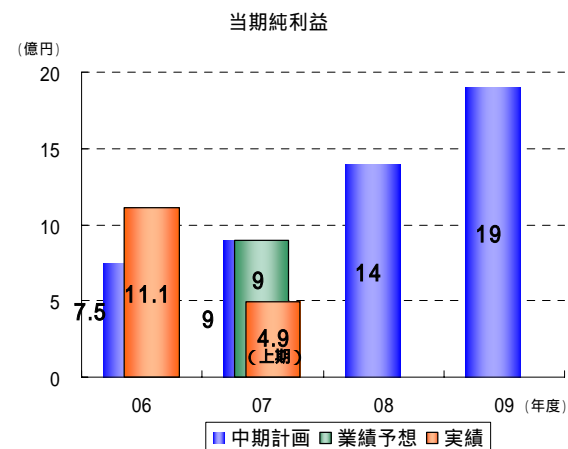
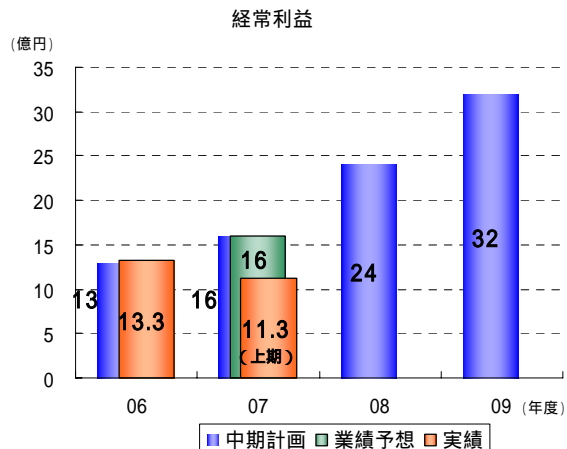
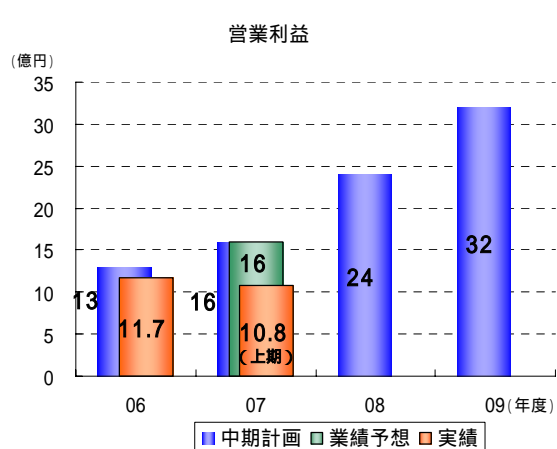
注：・08年3月期業績予想のROE算出には、07年3月期上期末時点のB/Sの値を使用。
 ・08年3月期業績予想の一株当り純利益には、07年3月期上期の期中平均株式数を使用。

中期経営計画との比較（連結）2

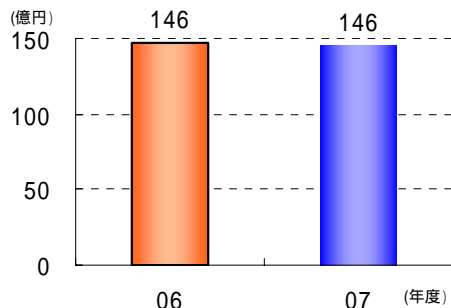
売上高



利益



売上高



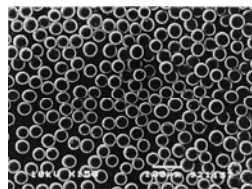
主な製品、開発テーマ

電子印刷材料	トナー用材料、キャリア用材料
磁気記録材料	テープ用デジタル記録材料、磁気カード用記録材料
環境機能材料	ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド、からす対策ごみ袋用コンパウンド
顔料	樹脂塗料用顔料、土木建材用顔料、化粧品用高級顔料

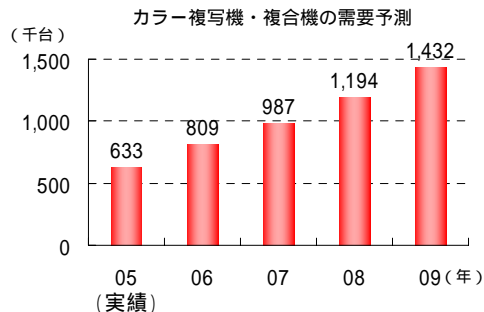
カラートナー用材料（キャリア）

当社のカラートナー用キャリアは耐久性、画質性で非常に高い性能を有しています。

カラー印刷の需要は、今後とも急速に拡大して行くので、キャリアの販売についてもシェアを拡大しながら加速を付けて伸ばして行きます



カラートナー用キャリア



データテープ用のデジタル磁気記録材料

データテープ用のデジタル磁気記録材料として、より微粒化、高性能化された次世代の記録材料を開発しています。中期的には、記録層用新規磁性材料の投入による大幅なシェアの拡大を図ります。

新しい顔料

以下の開発成果を拡販に活かしていきます。

アスファルト用着色顔料



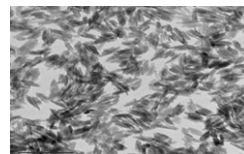
色彩性、施工性に富んだ「CSアスファルト」による舗装工事

道路レーン標示用無鉛顔料



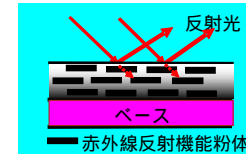
環境に優しい無鉛顔料によるセンターライン

透明顔料



有機顔料を超える対候性を有する透明酸化鉄顔料（拡大写真）

遮熱顔料

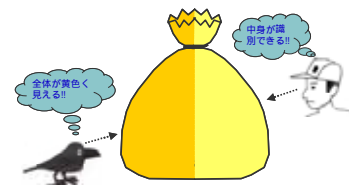


温暖化、ヒートアイランドを防ぐ光反射性の遮熱顔料の仕組み

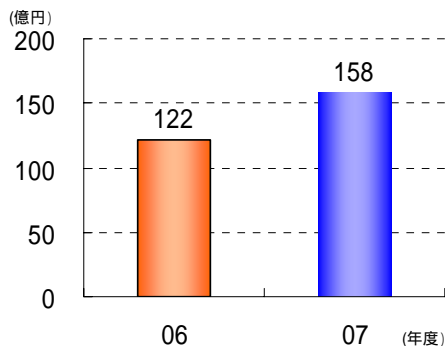
カラス対策ごみ袋用コンパウンド

NHKでも紹介されましたが、当社の黄色のごみ袋は、カラスの啄みをシャットアウトします。自治体への採用を働きかけています。

波長を利用した黄色系ごみ袋の内容物の識別想定図



売上高



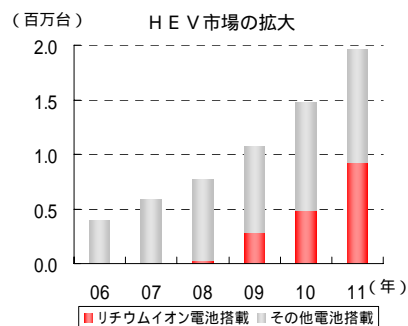
主な製品、開発テーマ

電池材料	二次電池用正極材料
電磁環境部品/材料	アンテナ増感シート、ICタグ、フェライトウェハー
磁石/磁石材料	希土類磁石、モータ用磁石向け磁性材料、電子印刷部品
その他	燃料電池用改質触媒、コンデンサ用誘電体材料、塩化ビニール安定剤、光学フィルター用電磁遮蔽材料

電池材料事業

時代の流れと市場ニーズに適応したリチウムイオン電池用正極材料の開発と商品化に力を注いでいます。そこでは、当社技術基盤である粉体合成技術、加工生産技術が大いに発揮されます。

すでに生産・販売しているニッケル系とコバルト系に加え、マンガ系、鉄系リチウムイオン電池用正極材料をラインアップする計画です。



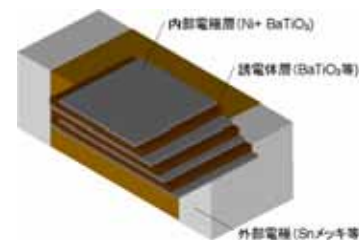
希土類ハイブリッド磁石

電気自動車市場に対して希土類ハイブリッド磁石の販売を伸ばします。



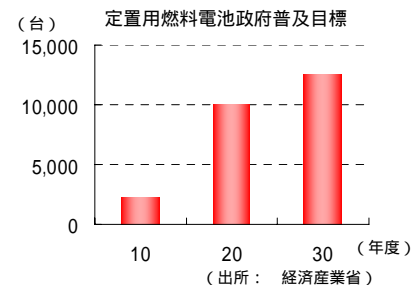
誘電体材料 (微粒子)

小型大容量チップコンデンサの市場は今後も確実に伸びてゆきます。開発したナノサイズで性能の高い誘電体材料の拡販に努めます。



燃料電池用改質触媒

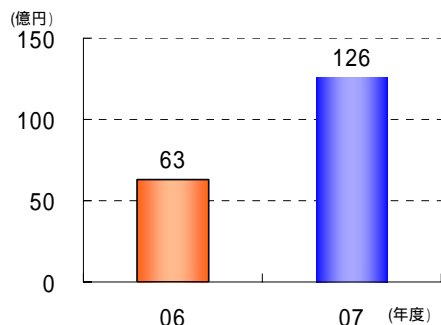
温暖化防止の切り札の一つとして期待されている燃料電池は、21世紀における成長期待分野です。改質触媒の開発にも力を入れています。



鉛を含有しない塩化ビニール安定剤

塩化ビニール安定剤の脱鉛化の動きは今後とも勢いを増してゆきます。鉛を含まない安定剤TACの拡販に力を注ぎます。

売上高



主な製品、開発テーマ

エンジニアリング	環境エンジニアリング、土壌浄化
----------	-----------------

富士化水工業の事業

富士化水工業は、水・空気・土壌・廃棄物を対象とした最先端のテクノロジーで環境エンジニアリングを国内外でトータルに展開しています。システムエンジニアリングとテクニカルサービスを両輪として、水処理、廃ガス処理、汚染土壌処理、廃棄物処理などすべての環境分野に対応。最適な装置や設備、サービスを提供しています。



モレタナ式スクラパー
排煙脱硫装置・排煙脱硝装置



嫌気好気活性汚泥処理装置



トルロ
有機廃水（排水）処理装置

土壌・地下水浄化ソリューション事業の展開

土壌浄化剤であるRNIP（VOC浄化用触媒）とAMH（重金属不溶化剤）を技術の核として、土壌汚染の調査から対策工事までの幅広いソリューションを展開して行きます。



VOC浄化のためのRNIP施工方法(例)

事業環境

国内製造業の環境整備投資は、バブル崩壊の影響が一時的にあったものの、堅調に拡大

半導体・電子部品・自動車・食品などからは高次処理の必要な廃水が生じています。また、環境関連設備のメンテナンス・リプレース投資が拡大してきています。

アジア地域での環境整備投資は急拡大

経済自体の成長が急速であると共に、排気と廃水の基準達成率は、未だ低い状態にあり、市場は急成長しています。

成長戦略

1. 国内成長分野での事業拡大
2. 国内メンテナンス・リプレース分野で顧客満足度の向上、事業拡大
3. アジア市場での事業拡大
4. 脱硫事業の強化
5. 新規技術・開発の推進

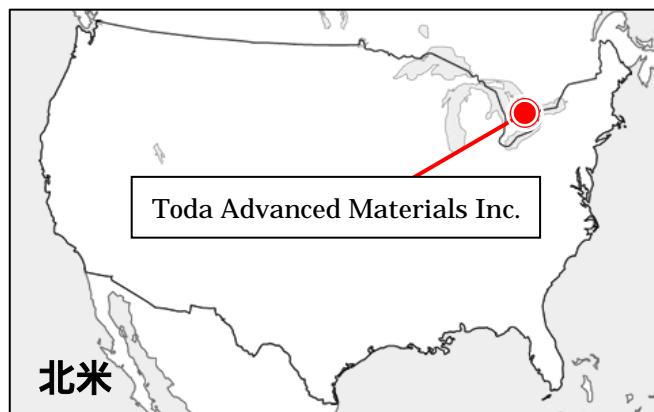
H.C.スタルク社から電池材事業を買収

8月1日にH.C.スタルク社と電池材料部門の買収契約を締結し、新会社を設立しました。

これにより、今後も成長が見込まれるニッケル系製品の製造拠点が加わり、また、リチウムイオン電池用正極材料のグローバルな供給が可能になります。

新設会社の概要

名称	Toda Advanced Materials Inc.
所在地	カナダ オンタリオ州 サーニャ市
主な製品	リチウムイオン電池用正極材料の前駆体、ニッケル水素電池用正極材料など
生産能力	ニッケル系電池用の正極材料 / 正極材料前駆体を年間4,000トン生産
従業員数	約30名



グローバルな供給体制、原料調達を確立

新会社の設立により、当社の電池材料事業は、小野田事業所（山口県小野田市）、戸田マテリアル(株)北九州工場（福岡県北九州市）とあわせて三拠点から展開します。

今回買収したサーニャの工場は、欧米における唯一最大のニッケル系電池材料の生産工場であり、現在主流のニッケル水素電池の正極材料も生産しています。

今後はこの三拠点にてコバルト系、ニッケル系、マンガン系、鉄系などと幅広い製品群を整え、リチウムイオン電池用正極材料などのグローバルな生産・供給を進めていきます。



開所式の様子



上空から見た工場

おサイフケータイ用アンテナ増感シート

アンテナ感度が向上し、通信距離が拡大するという優れた特性を有したアンテナ増感シートが、お財布携帯等で活躍しています。

1. 用途

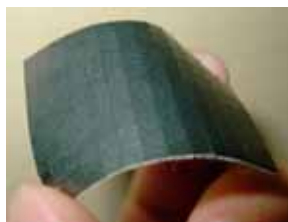
ノイズ抑制
通信回復

2. 従来技術

金属磁性粉をシート化

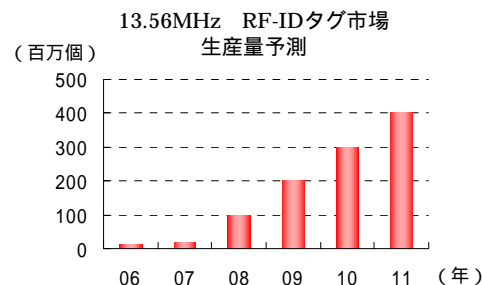
3. 特徴

スリットが入っており、様々な形状にフィット
透磁率を容易に制御
50～200 μ mまで自由に厚さ制御
打ち抜き加工可能
安価



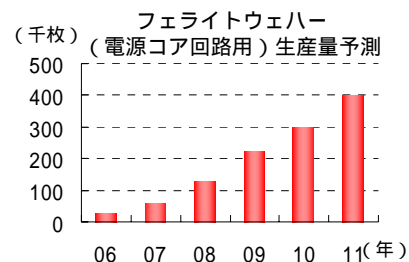
ICタグ用磁性アンテナ

小型で耐熱性に優れ、金属表面でも動作可能な特性を有したICタグ用磁性アンテナを開発しました。ICタグの市場は今後急拡大して行くことが見込まれており、本年度は量産販売を開始致します。



フェライトウェハー

フェライトウェハーの上に電子回路を構築し、容易に電子部品を生産することが出来ます。マイクロDC-DCコンバータや薄型トランスなどの次世代電源モジュール(コイルとICの一体化)用に開発を進めます。生産工程の大幅な省力化につながるので、拡販を目指します。



将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基き算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営管理本部長

高橋 精一

TEL 03 3433 2411 FAX 03 5404 7244

E-mail: Webmaster@todakogyo.co.jp